

事務事業名 養護老人ホーム改修事業補助金		所属部 健康福祉部	所属課 長寿障がい福祉課
総合計画体系的	政策名 (Ⅲ) 支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	所属G 高齢者福祉G	課長名 糸原 幸子
	施策名 (22) 高齢者福祉の充実	担当者名 晴木 幸江	電話番号 0854-40-1042 (内線) 2152
	目的 対象 65歳以上の市民 意図 生きがいを持って、いきいきと暮らす。	予算科目 会計 款 大事業 大事業名 0 1 1 5 0 2 老人福祉総務管理事業 項 目 中事業 中事業名 0 5 3 0 6 8 養護老人ホーム改修事業補助金	
	基本事業名 (065) 地域ケア体制の充実 目的 対象 65歳以上の市民 意図 住み慣れた地域で安心して暮らす。		

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (28年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
老朽化した養護老人ホームの長寿命化を図るため、見積総額が1,000万円以上の大規模改修費に対する補助金交付。ただし、当該補助金の交付を受けた年度の翌年度の初日から起算して3年以上経過していないときは、交付対象としない。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	28年度実績(28年度に行った主な活動)	29年度計画(29年度に計画する主な活動)			
		・施設修繕に係る法人との協議 ・修繕工事に係る補助金事務 【宇寿荘】 屋根等修繕工事、給水改修工事	なし			
	② 活動指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	ア 市内養護老人ホーム施設数	施設			1	1
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
	施設の利用者	ア 宇寿荘入所者人数	人			80	80
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
施設の修繕を行うことにより、入所者の生活の場として、食事・入浴など日常生活上の支援や介護を安心して受けることができる。	ア 当該修繕により安心して生活できる施設の使用見込期間	年			10	0	
	イ						
	ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (28年度決算)	② コストの推移	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(計画)	
事業費総額 25,470千円 補助金交付額 12,735千円	財源内訳 事業費 人件費 トータルコスト(A)+(B)	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円			12,700	
		その他	千円				
		一般財源	千円	0	0	35	0
		事業費計(A)	千円			12,735	
		正規職員従事人数	人	0	0	2	
	延べ業務時間	時間			100		
	人件費計(B)	千円			397		
	トータルコスト(A)+(B)	千円			13,132		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
宇寿荘は昭和63年に建設され27年が経過、老朽化により修繕箇所が急増している。また、経済的な理由等で在宅生活の困難な方への市内唯一の高齢者措置施設であり、必要不可欠な施設である。	市内唯一の高齢者措置施設の長寿命化のため、平成28年度に修繕に対する助成制度を創設した。	居室が2人部屋であること、2階建てだがエレベーターがないことなど、利用しにくいという意見がある。

事務事業名	養護老人ホーム改修事業補助金	所属部	健康福祉部	所属課	長寿障がい福祉課
-------	----------------	-----	-------	-----	----------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	施設の老朽化に伴い修繕箇所が増えているも、3年に1度、修繕費を助成しており、当該法人に計画的な修繕を促すものとなっている。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	修繕の内容によっては、施設の使用ができなくなる。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名)	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		類似事業はない
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない			
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		緊急性がある必要最低限の修繕のみ実施している。
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		法人との協議等により進めていくものであるため、委託することができない。
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		市内唯一の措置施設の修繕であり、公平公正である。
D 公平性	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		緊急的なものを必要最低限で行う。また、当該補助金の交付を受けた年度の翌年度から3年度以上経過していないときは、交付対象としない。
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり			

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
		コスト																	
	削減	維持	増加																
成果	向上																		
	維持	●	×																
	低下	×	×																
老朽化及び利用しにくい施設であることにより近い将来の建て替えを見据え、それまで施設を維持するための事業である。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		